

C95冬コミ突発CG集

バストが
1.5^{メートル}mある
巨乳小学生



鳥脈町にバスト1・5メートルの超巨乳小学生がいる。

さとう けれす

名前は差藤湍礼須ちゃん。11歳。鳥脈南小学校に通う5年生である。

身長144センチで、バストはなんと154センチ。

アンダーバストは67センチなのでその差87センチとなり、カップサイズはZの6つ上ということになる。もちろんそんなブラジャーはないのでいつもノーブラだ。

体重は72kgとのことだが、調べによるとそのうち26kgが両乳房の重さだという。



けれすちゃんは幼児の頃から乳房が膨らんでいて、小学1年生の時にはDカップ相当だったのだが、それから4年あまりで28カップ分発育した。

ぶっちゃけ病気というか先天性形成異常である。

母親がけれすちゃんを生む前に「気持ちよくなるクスリ」を多用したことが原因とされている。

母親はこんなけれすちゃんを持ってあまし、ほぼ放任。父親はいない(誰の子か不明)。

悲惨な身の上と言えるが、まわりにけれすちゃんを助けてくれる人も多く、健気に生活している。

登校中は、通りすがりの親切な男性たちがけれすちゃんのおしりや内もも等の重い乳房を持って歩いてくれる。しかもマッサージつきである。



このとき、男性たちは性的興奮を覚えてしまい思わず白濁液を放出してしまうことがある。小学校に着く頃には、けれすちゃんのおしりや内もも等は白濁液まみれになっている。

ちなみに、けれすちゃん自身が分泌した透明な液も、内ももを流れている。



小学校では
乳房のことで悪口を言われたりからかわれたり
持ち物を白濁液で汚されていたりすることもあがるが、
そこまで問題になるようないじめはない。
仲の良い友達は特にいないものの、
けれすちゃんが困っている時には
普通に助けしてくれる児童が多い。
けれすちゃんの小学校生活は概ね
平穏無事といえる。



けれすちゃんはもちろん体育が苦手だ。
とりわけ走ったり跳ねたりすることは苦行としか言いようがない。
それでもけれすちゃんはいつも真面目に運動に取り組む。

けれすちゃんが
おっぱいをブルンブルン
揺らして運動する姿は
一般の男性にも
よく校庭の外から
見物されている。

反面、プールは好きじゃなければ。水中では乳房の重さから解放されるし、乳房は水に浮くので泳ぐのが楽になる。ただ、くれすちゃん工夫して作った改造スク水では1・5メートルの特大大おっぱいを完全にサポートすることはできず、すぐに乳房がこぼれてしまい、恥ずかしい陥没乳首を、クラス全員に晒してしまう。

そんな時はクラスの男子ほぼ全員が海パンの前をテントにしてしまい、そのまま暴発してしまう子も数人いた。



けれすちゃんには乳腺も異常発達しているので、体調によって母乳が出てしまうことがある。
ある程度の量を排出すれば止まるので保健室などで搾り出すのだが、
その際いつも親切な男子児童や男性教師などが
吸い出すのを手伝ってくれる。



いつも

乳輪深く埋まっている乳首を

ほじくり出され、敏感な部分を

チュウチュウ吸われると、

たまった母乳が抜けていく快感とともに

もう一つ別の快感も湧き上がって

けれすちゃんはイッてしまうのだった。

けれすちゃんが母乳をたっぷり放出したあとは、手伝った男子たちも白濁液をたっぷり射出する。

放課後になると、
けれすちゃんは近所の
「超乳研究会」に向かう。
超乳研究会とは、
巨乳症の研究と治療を
おこなうという名分で、
活動している団体で、
毎日けれすちゃんの体を
研究させてもらうことにな
っている。

もちろん実際は単なる
巨乳小学生好きの素人が
5〜6人で集まって結成した
変態集団なのだが
けれすちゃんの母親に
月々けっこうな額の謝礼金を
支払うことで
何でも自由にやっていると
許可を得ている。

研究室（ただの安アパートの二室）では、けれすちゃんはずり裸にランドセルという異様な格好をさせられる。研究員（変態ども）のモチベーションが上がるといふ理由である。記録用のカメラを向けられながら、乳房のサイズや重さを測られ、手触りや揉み心地などの検査をされる。



乳首を掘り出されて触診されると母乳を吸われる時と同様に性感を刺激されイッてしまうけれすちゃん。

柔らかさの研究として、
乳房に数本の男性器を押し付けられる。
パン生地に指を突き立てるように、
巨大な乳肉に男性器が
ずぶずぶと埋まってゆく。

研究員たちは
恍惚の表情を浮かべながら
何度も男性器を埋めたり引いたりし、
やがてけれすちゃんの乳房に
大量の白濁液をぶちまける。

超乳研究会は、けれすちゃんの乳房だけでなく全身を研究することを認められている。
もちろんそれには下半身も含まれる。

普通の成人女性より大きく成長した乳房とは違って、けれすちゃんの割れ目は子供相応につるつるすべすべの無毛まんこである。

生理は1年ほど前から始まっているのですでに生殖機能は備えているはずだが、見た目はまだ未成熟で初々しいピンク色をしたかわいらしいおまんこだ。

研究員たちがじっと見つめながら性器の色や形について話していると、

けれすちゃんは落ち着かない様子を見せ、

やがて膣口がヒクヒクと蠢き始め透明な粘液を垂れ流し出す。





物欲しそうに開閉を繰り返す膣口に指を差し込んでやると、濡れた穴にヌルツと飲み込まれる。膣内の肉がいつせいに指にまとわりつき、締めつけてくる。外性器の見た目は幼いが、膣内はすでに雌としての機能を万全に備えているのだ。

膣壁のプチプチした突起群を指で擦り上げてやると、けれすちゃん「ああっ！」と可愛らしい声を上げて身をのけ反らせ、おっぱいがブルンツと跳ねる。

指を2本に増やして
膣内を掻き回しながら
勃起したクリトリスを剥き出して
扱き上げると、

けれすちゃんは小刻みに
体とおっぱいを揺らして
「あっ、あっ、あっ」と
のぼりつめてゆき
「あーっ、いく、いくう！」
と叫んで絶頂に達した。

乳研究会は、妊娠による超乳小学生の乳房の変化を研究したいと考えており、

けれすちゃんを妊娠させるため生殖行為をする。
妊娠するまで男性研究員が全員でけれすちゃんの膈内に
精液を放出し続けなくてはならない。
という名目で、研究員たちは
けれすちゃんと好きなだけ
セックスしていいことになっ
ている。

1・5メートルという
超巨大おっぱいを
弄びながら、小学生の
きつきつ穴に
ちんぽを突っ込んで
思いつきり膈内射精
できるのだ。

全員が夢中になって何度も何度も
けれすちゃんを犯した。
そんな変態男たちの病的かつ
猛烈なセックスをけれすちゃんは
拒んだり嫌がったりすることなく、
彼らと一緒にイキまくった。



けれすちゃんはもともと男にいやらしいことをされるのが嫌いではなかった。母親に疎まれ、自分の存在意義を見失っていた時に自分のこの異様な乳房が男を喜ばすことができるということを知りむしる積極的に男に体を差し出すようになった。そしてこの超乳研究会に来てからは、この男たちが普通の男以上に自分を求めてくるのが嬉しくて(そして彼らから受け取るお金で母親の機嫌が良くなるのもありがたくて)彼らが望むことは何でもしようと考えていた。

さらに

セックスでイクことを覚えてからは、セックスそのものが大好きになりますます意欲的に彼らとの子作りに励んだ。



研究調査により、
けれすちゃんにはセックスで平均5回
イッた頃に母乳を出し始めることがわかった。
いつも研究員たちとのセックスは
3〜4時間に及ぶのだが、その間
けれすちゃんは数十回イキまくる。

つまり5回イクことなど
30分以内に達成してしまうので、
その後はずっと母乳を噴き出し
つづけたままセックスする
ことになる。

研究員たちは超巨乳の小学生が
母乳まで出すことに興奮して
いっそう激しくセックスに勤しみ
けれすちゃんもセックスの悦楽と
たまった母乳が抜けていく快感、
そしてより強く彼らから求められる
喜びでこの上ない充足感を得るの
だった。

けれすちゃんのバストは順調に発育し続け、もうじき2メートルに達しようかというところに来ている。超乳研究会がけれすちゃんの研究報告を逐一動画サイトに上げているせいもあって、けれすちゃんの人気はいつのまにか全国規模、世界規模になっていた。テレビや雑誌からも取材が来たりしてチヤホヤされ、おどろくほどの収入も得られるようになったので母親もすっかりけれすちゃんを見直し、愛情を注ぎ始めている。



重いし邪魔だし大変なこともあるけど、この大きすぎるおっぱいも大好き！——と思う、けれすちゃんなのだった。

【終】